

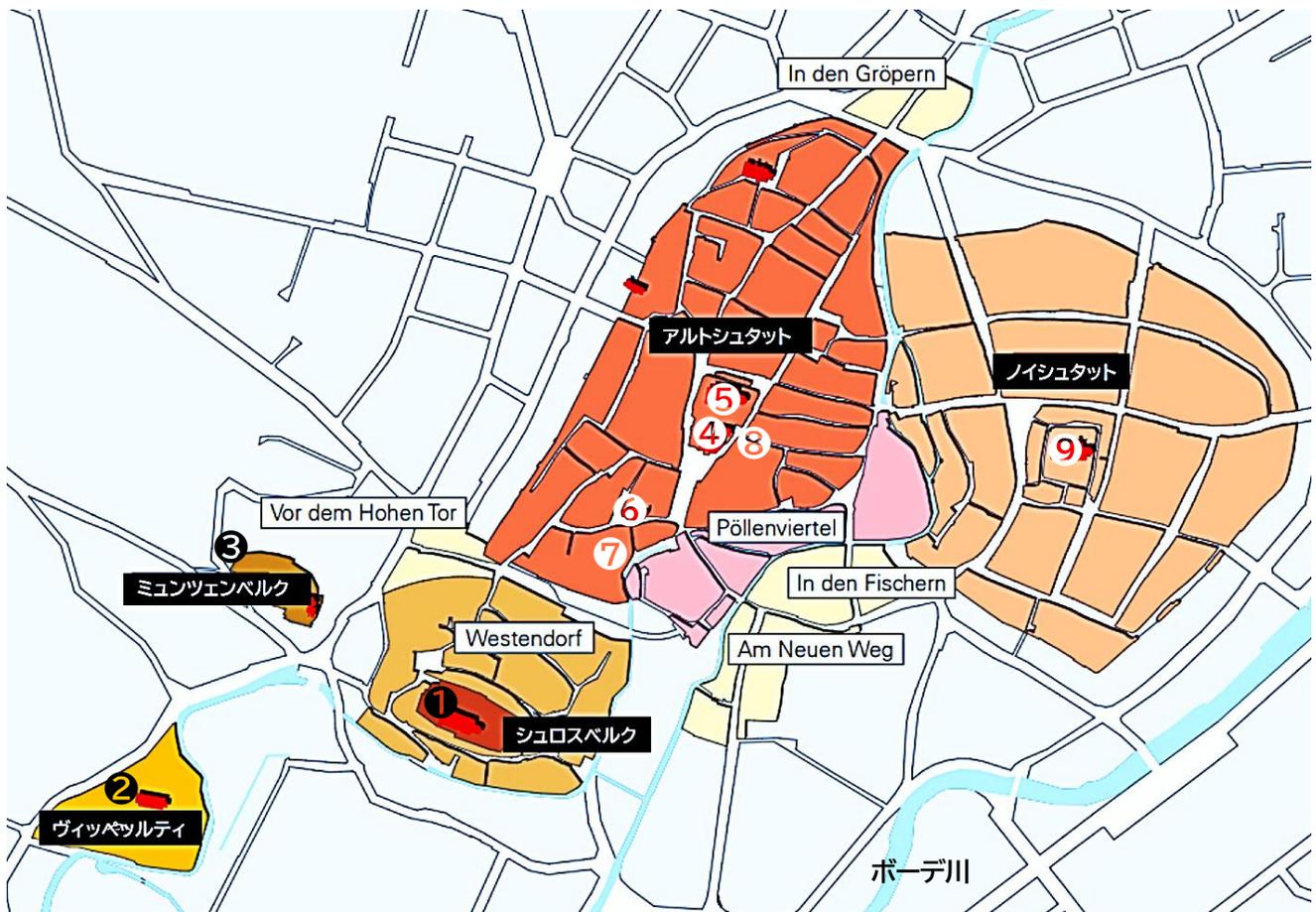
# 木組みの家が並ぶ古都・クヴェトリンブルク

2021年10月23日 朝日カルチャーセンター立川 岡部由紀子

ブロッケン山(標高 1141m)のあるハルツ山地の北東に位置する都市(海拔 123m)。  
ハルツ山地の湖を水源とするボーデ川(ザーレ川の支流)が、市域を流れている。  
10世紀に城と町の建設が始まり、当時のロマネスク様式の建造物が見られる。  
中世に栄えた交易都市で、ハンザ同盟にも加わった。  
庶民の家から富裕市民の館まで、600年以上にわたって建てられた1300軒以上の  
木組みの家が軒を連ね、ドイツで最も多くの木組みの家が保存されている。  
1994年にユネスコ世界文化遺産リストに登録された。



## ユネスコ世界文化遺産リストに登録された地区



9世紀末、ハルツ北辺の地を本拠としていたザクセン公は、クヴェトリンブルクに館を構え、復活祭を過ごしていた。  
919年に東フランク王に選ばれたハインリヒ1世は、ザクセン朝を開き、シュロスベルクの丘に居城を築く。  
936年にハインリヒ1世が没すると、王妃マティルダは、シュロスベルクに女子修道院を建てる事業に着手。  
女子修道院附属教会は、後に聖セルバティウス教会となり、地下聖堂はハインリヒ1世とマティルダの墓所となっている。  
神聖ローマ帝国の初代皇帝であるオットー1世は、ハインリヒ1世とマティルダの子で、この地で帝国議会をひらいた。

## ロマネスク様式の建造物

- ① シュロスベルク（城山） 936年～女子修道院建造1070–1129年 聖セルバティウス教会 St. Servatius
- ② ヴィッペルティ 聖ヴィッペルティ教会 St. Wiperti 10世紀に建てられた教会の地下聖堂が現存
- ③ ミュンツェンベルク 聖マリア修道院教会 Klosterkirche St. Marien 986年に建造され、宗教改革で廃止



994年、オットー3世から市場開催権、税の徴収、貨幣の鋳造を認められる。アルトシュタット(旧市街)の東西に走る交易路が交差する所に、マルクト(市の立つ広場)、市庁舎、教会ができ、商人や手工業者が流入して町が形成されていく。経済力をつけた市民は、装飾を施した立派な木組みの家を建て、領主である女子修道院の勢力に対抗しようとした。

## 中世の街並み

- ④ マルクトと市庁舎 14世紀初めの建物が核となっている。市民の自治権を象徴するローラント像が立っている。
- ⑤ 聖ベネディクト教会 St. Benedikti 市庁舎の裏手 12世紀に献堂され、ロマネスク様式の部分が残っている。
- ⑥ 聖ブラジ教会 St. Blasii 創建は10世紀に遡り、1715年バロック様式に改築。塔に、ロマネスク様式が残る。
- ⑦ シュテンダーハウス Ständerhaus 14世紀に建造された木組みの家。通し柱を用いた素朴な構造。
- ⑧ 靴職人のギルドハウス 1554年建造のルネッサンス様式の家。一階にある通路は、靴職人の家の路地へと通じる。
- ⑨ 聖ニコライ教会 St. Nikolai 13世紀に建造されたノイシュタットで一番古い教会。ゴシック様式。



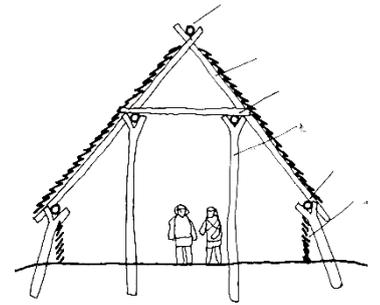
## ヨーロッパの民家

西部、南部ヨーロッパ 建築用石材に恵まれる。石灰岩、大理石、花崗岩、砂岩

北部、中部ヨーロッパ(アルプスの北) 木材資源に恵まれる。

扱いやすい建築資材なので、庶民が自分の手で住居を建てることができた。

- \* 森林が多い地域：常緑針葉樹の丸太を積み上げる構法 丸太小屋  
例) アルプス地方 (南ドイツ、スイス、オーストリアの山間部)の住居、穀物倉



ゲルマンの掘立柱の家

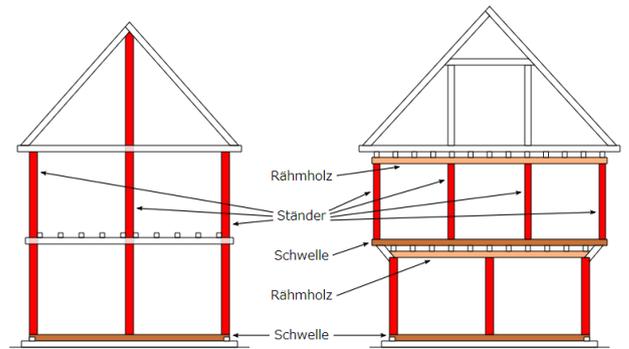
- \* 森林が限られている地域：木材の柱と梁で骨組みを作り、骨組みの間は別の素材で埋める構法 木骨造  
例) ドイツ中部、南部の木組みの家 オークなどの広葉樹材 → モミやトウヒなどの常緑針葉樹材

## 木組みの家 Fachwerkhaus

13世紀以前の木組みの家は残っていない。

1347年 シュテンダーハウス ⑦ が建てられる

砂岩の基礎、土台から屋根まで6mの通し柱の2階建て  
瓦屋根は16世紀から その前は藁ぶきやこけら板の屋根。  
柱の間は、木の支柱に柳の枝を編み込み、藁の入った粘土をつめて、その上に漆喰を塗った。



通し柱を使う構法から、階ごとに短い管柱を使う構法へ

15世紀になると、長い通し柱を使わずに、一階ごとに短い管柱と梁で骨組みを作り、それを重ねていく構法が増える。  
狭い路地を狭めることなく住空間を広げるため、片持ち梁を利用して上部の階がせり出していく工夫。

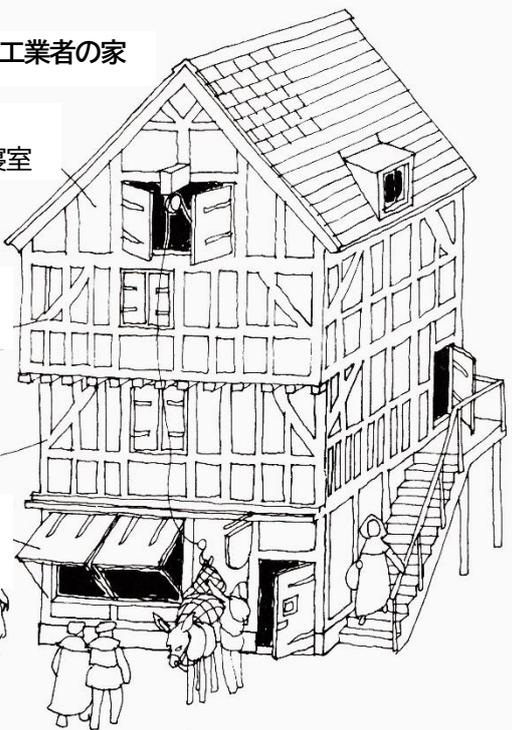
### 商人・手工業者の家

倉庫  
雇人の寝室

家族の  
寝室

居間

店  
仕事場



### 木組みの枠の間

編み垣に粘土を塗ったもの、石、煉瓦で埋められ、その上に漆喰が塗られた。

柱や梁、筋交い、横木や窓台には、漆喰を塗らない。  
補強を兼ねた多くの筋交いが装飾的な効果

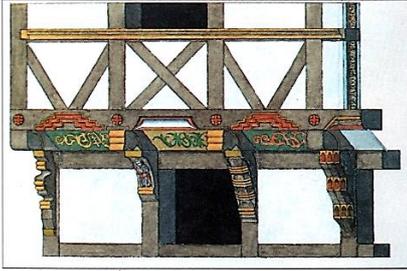
せり出した部分の木材や窓の下の部分には、彩色された彫刻の装飾が見られる。

力強い木組みの黒と漆喰の白の対称が美しい、遊び心が感じられる装飾を持った木組みの家が、中世から近世のドイツ中部、南部の街並みを形作っていた。

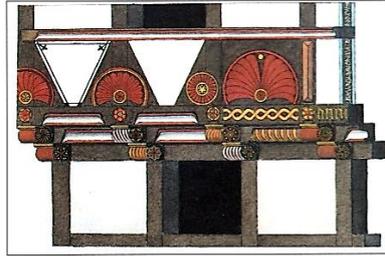
# クヴェトリンブルクの木組みの家

## 各時代の装飾

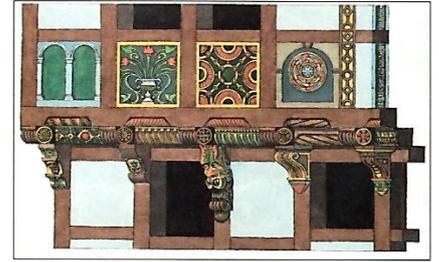
Fachwerk im Zeitalter der Spätgotik  
1400 – 1535



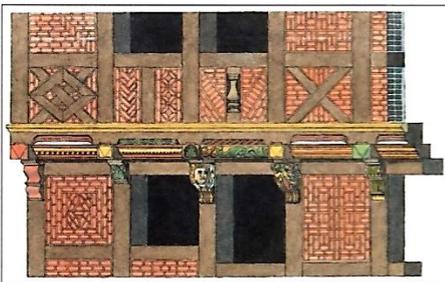
Fachwerk im Zeitalter der Renaissance  
1535 – 1620



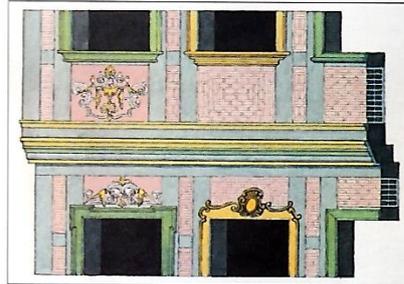
Fachwerk im Zeitalter des Manierismus  
1610 – 1635



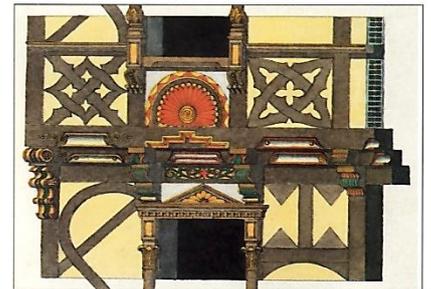
Fachwerk im Zeitalter des Barock  
1635 – 1710



Fachwerk im Zeitalter von Spätbarock und  
Klassizismus 1710 – 1830



Fachwerk im Zeitalter von Historizismus und  
Jugendstil 1830 – 1915



下からよく見える下の階よりもせり出した部分には、工夫をこらした帯状の装飾彫刻が施され、建築主の名前、建築年、大工の名前などが刻まれている。

窓の下の壁にも、半円形のロゼッタ模様や、家の紋章、バツェン模様(聖アンデレ十字)などの装飾がある。

木組みの大きな家は、町の大工や屋根職人の手で建てられた。小さな家は、所有者自身が作るのが普通。

立派な家の所有者は、遠隔地の織物の交易にたずさわる商人(参事会員)が多かった。



1612 年建築の市長の家、一時期、大工のギルドハウス



1580 年 ニーダーザクセン風のルネッサンス様式

## 参考文献

『世界の建築術 人はいかに建築してきたか』若山滋ほか 彰国社 1986

『図説西洋建築物』ビル・ライズベロ/下村純一ほか訳 グラフ社 1982

クヴェトリンブルク紹介ビデオ

ドイツ文化財保護財団制作 Deutsche Stiftung Denkmalschutz “Quedlinburg hoch hinaus” 2020